

食料生産学科

学科のアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

<求める入学者像>

食料生産学科は、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスを俯瞰できる広い視野をもち、農業の6次産業化、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給の実現に意欲的に取り組むことができる学生を求めます。そのため、一般入試に加えて、学校推薦や自己推薦などの様々な入試方法も採用しています。

そこで、食料生産学科は次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解)

1. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。
2. 次のいずれかに該当する。
 - A. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの課題を解くことができる。
 - B. 農業、工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有しているか、高等学校で選択履修した教科・科目について実践的・体験的学習から得られた知識・知見・技術を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲、態度)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題に関心をもち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもっている。

(技能・表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

<入学者選抜>

前期日程、後期日程、推薦入試Ⅰの他、知能的食料生産科学特別コースではAO入試Ⅱを採用し、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行います。また、留学生に対しては渡日前入学許可制度による私費外国人留学生入試を採用し、多様な属性をもつ意欲ある学生に対して門戸を開きます。

学科のカリキュラム・ポリシー(CP: 教育課程編成・実施の方針)

<教育内容>

食料に関する専門知識と技術を習得するにあたって、農学に関する広範で俯瞰的な知識と技術も同時に必要不可欠であるという考え方から、学部共通科目として、必修7単位、選択9単位の授業科目を開講しています。また、2年次よりコースに所属しますが、学科共通の授業科目も開講しています。また、1年次には農学実習 I A、Bを必修とし、学科の知識を深めるとともに技能技術の基礎を身に付けます。さらに、卒業論文の開始時期を3年次後期とし、デザイン能力を修得します。

<教育方法>

講義形式の授業だけでなく、実験・実習等のアクティブ・ラーニングを取り入れます。また、すべての授業において授業時間外の学習を含む十分な学習時間を確保します。

<教育評価>

すべての授業において客観的な評価基準(試験、レポート等)に基づいて厳格な成績評価を行います。

学科のディプロマ・ポリシー(DP: 卒業認定・学位授与の方針)

<学部の教育理念と教育目的>

農学部は、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する専門知識・技術を修得させ、地域的な視点と国際的な視野から食料、生命、環境に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育理念とします。

また、農学領域における様々な研究及びそれらの成果を基に、食料、生命、環境に関する専門的知識・技術を学生に修得させ、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる専門職業人や技術者を養成することによって、地域社会や国際社会における産業の発展と文化の進展に貢献することを目的とします。

<育成する人材像>

農学部の教育理念に基づいた農学教育を提供することにより、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給を実現し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。具体的には、

- 栽培・生物学分野から食料生産における知識と技術を習得し、課題解決力を備えた人材
- 最先端の植物工場や施設栽培に関する知識と技術を習得し、課題解決力を備えた人材
- 食の安全安心を担保するための社会科学的な知識と技術を習得し、課題解決力を備えた人材

を輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

安全・安心な食料の安定供給を実現するための必要な、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスに関する専門知識と技術を修得している。

(思考・判断)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関連する諸課題、特に食料に関連する諸課題の原因を論理的に説明でき、解決策を見出すことができる。

(興味・関心・意欲、態度)

上記の諸課題を解決するため、主体性、協調性および高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

(技能・表現)

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

<卒業認定・学位授与>

愛媛大学に4年以上(学士2年次編入生では3年、3年次編入生では2年以上)在学し、共通教育科目33単位、学部共通科目7単位、学科共通科目33単位、コース専門科目56単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学士(農学)の学位を授与します。

知能的食料生産科学特別コースのアドミッション・ポリシー (AP:入学者受入れの方針)

<求める入学者像>

知能的食料生産科学特別コースは、圃場、園芸施設、植物工場など様々な食料生産現場において、篤農家技術からセンサー技術、情報化技術、情報通信技術まで様々な先端技術を活用して、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスの知能化、スマート化を進めるために必要な知識や技術を身につける意欲をもった学生を求めます。

そこで、知能的食料生産科学特別コースは次のような資質を有する学生を求めます。

(知識・理解)

高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(興味・関心・意欲、態度)

地域社会や国際社会における食料、生命、環境に関する様々な問題、特に食料に関する問題に関心を持ち、学士課程・修士課程の6年一貫教育によって修得する知識をこれらの解決に役立てたいという意欲をもって行動することができる。

(技能・表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

<入学者選抜>

知能的食料生産科学特別コースは、高度人材育成のための特別な6年一貫カリキュラムを編成しており、確かな基礎学力、明確な目的意識、強い意志をもつ学生を選抜するため、自己推薦によるAO入試Ⅱを採用しています。

知能的食料生産科学特別コースのカリキュラム・ポリシー (CP:教育課程編成・実施の方針)

<教育内容>

環境に関する専門知識と技術を習得するにあたって、農学に関する広範で俯瞰的な知識と技術も同時に必要不可欠であるという考え方から、7単位分の学部共通科目と15単位の学科共通科目を必修としています。また、大学院授業科目の先行受講(学部4年次から)、学部卒業研究の先行実施(学部3年次前学期から)、国内、海外インターンシップの実施などのカリキュラムがあります。

<教育方法>

講義形式の授業だけでなく、実験・実習等のアクティブ・ラーニングを取り入れます。また、すべての授業において授業時間外の学習を含む十分な学習時間を確保します。

<教育評価>

すべての授業において客観的な評価基準(試験、レポート等)に基づいて厳格な成績評価を行います。

知能的食料生産科学特別コースのディプロマ・ポリシー (DP:卒業認定・学位授与の方針)

<学部の教育理念と教育目的>

農学部は、生物生産技術の開発と安全・安心な食料の安定供給、生命機能の解明と生物資源の利用、生物環境の創造・修復・保全・管理・利用に関する専門知識・技術を修得させ、地域的な視点と国際的な視野から食料、生命、環境に関する様々な問題を解決し、自然と共生する持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを教育理念とします。

また、農学領域における様々な研究及びそれらの成果を基に、食料、生命、環境に関する専門的知識・技術を学生に修得させ、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる専門職業人や技術者を養成することによって、地域社会や国際社会における産業の発展と文化の進展に貢献することを目的とします。

<育成する人材像>

農学部の教育理念に基づいた農学教育を提供することにより、食料に関する様々な問題を解決できる人材を育成します。具体的には、

- スマート農業を実践するためのICTに関する知識と技術を備える人材
- 最先端の栽培技術や計測・制御技術を身につけ、現場における問題解決・知能化に関する能力を備える人材
- 「総合情報システム化によるフードイノベーション(6次産業化など)」に対応できるスペシャリストや研究者

を輩出することを目指します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

篤農家技術からセンサー技術、情報化技術、情報通信技術まで様々な先端技術を活用して、栽培、管理から収穫、加工、流通、販売、経営までの一連のプロセスの知能化、スマート化を進めるために必要な専門知識と技術を修得している。

(思考・判断)

圃場、園芸施設、植物工場など様々な食料生産現場における知能化、スマート化を実現するために解決すべき諸課題を論理的考察に基づいて説明し、解決策を見出すことができる。

(興味・関心・意欲、態度)

「知能的食料生産科学」という新たな学術領域の開拓に参画するとともに、安全・安心な食料の安定供給を実現するため、主体性、協調性および高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

(技能・表現)

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

＜卒業認定・学位授与＞

愛媛大学に4年以上在学し、共通教育科目33単位、学部共通科目7単位、学科共通科目33単位、コース専門科目56単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学士（農学）の学位を授与します。